

(2025年度)

日本史問題 (90分)

(この問題冊子は12ページ, 18問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで, 問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に, 試験監督者から指示があったら, 解答用紙1ページ目の左上に氏名と受験番号を記入し, 所定のマーク欄をぬりつぶすこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら, この問題冊子が, 上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は, HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能, 計算機能, 辞書機能を使用してはならない。また, スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. マーク式の解答は, 解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで, そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき, マーク欄からはみ出したり, 白い部分を残したり, 文字や番号, ○や×をつけたりしてはならない。また, マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 記述式の解答は, 各解答欄にていねいに記入すること。数字, ローマ字については, 1マスに2字とする。
8. 訂正する場合は, 消しゴムでていねいに消したうえで, 消しくずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり, 破ったりしてはならない。
10. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

次の問題文は、離島地域を研究するある歴史学者(いわゆる「本州」地域出身)の述懐である。内容をよく読んで、関連する以下の問いに答えなさい。

【問題文】

北海道や沖縄へ調査に赴き、現地の人びとに自分の故郷について語るとき、「本州の…」と口にすることは、いささか居心地の悪さをともなう。この感覚は、「日本」をめぐるわたしたちの地理的認識、そして歴史認識と密接に結びついている。

地理学用語でいう日本列島は、ユーラシア大陸の東端へ、南北に垂下する花綵^{かさい}(弧状)列島の一部と表現できる。北東はカムチャツカ半島から千島諸島、北はサハリン島が北海道へと連なり、南西は九州から南西諸島、琉球弧、台湾島へ、南は伊豆半島から伊豆諸島、小笠原諸島へと大きな広がりを持つ。国民国家日本の領土はその一部をなすが、この大小さまざな島々のうち、どこまでが「日本」であり、どこからが「外国」なのか。一体どれだけの「国民」が、その境界を明確に把握しているだろうか。恐らく多くの「国民」の脳裏には、北海道、本州、四国、九州、沖縄、そして幾つかの島々が思い浮かぶだろう。しかしその「島々」は、名前も場所も、かなり曖昧なのではないか。それと同時に、「本州」という言葉からも明らかなおとおり、われわれは客観的にみえる地理学用語においても、畿内に王権の中心が置かれて以降の国家意識から逃れることができていない(厳密には「豊秋津島^{とよあきつしま}」といった名称があるが、一般的ではない)。離島の一部が、政変の敗者や重罪を犯した人びとの流刑地とされている^(a)のも、周縁を文化の行き届かない夷狄の地とみる、中華思想の一表現だろう。アイヌや沖縄の人びとに対するとき、「本州」を前提にすることは、甚だ暴力的ではないだろうか。

古代のヤマト王権は、5世紀の倭王武の時代には、九州から関東に及ぶ諸豪族^(b)と君臣関係を結んでおり、同領域を自らの「天下」とする認識を持っていた。武が478年、宋・順帝に奉呈した上表文には、「東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を^{たいら}平ぐること九十五国」とあり、列島の東方を「毛人」の国、西方を「衆夷」の国、北を朝鮮半島と認識していたことが分かる。「毛人」はのちの(ア)に通じ、「毛」は中国的な蛮族の表象である長毛に基

くとみられる。「夷」は中華の東方にある蛮族「東夷」に由来するが、彼らの国が西方にあるとする認識は重要で、宋王朝に対しヤマト王権自身を「夷」と^{へりくだ}謙っているものかもしれない。いずれにしろヤマト王権は、以降、東北／南西へ領土拡大の政治工作、そして侵略戦争を続けてゆくことになる。

『日本書紀』によると、7世紀後半の斉明朝には、越国守(イ)の遠征に際し、敵対勢力として「肅慎」や、「^{おしま}渡嶋」の地名を冠した民族集団が現れる。彼らからは、近年その人里への出没が脅威とされている(ウ)の皮が貢納されており、北海道以北に関わりがあるのではないかと想定されている。のちのアイヌの人びとは、古代東北のエミシ、擦文文化やオホーツク文化からさまざまな要素を受け継ぎ、古代から中世に及ぶ周辺諸民族との交渉のなかで文化的アイデンティティーを構築・展開、本州東北、北海道、千島、サハリンなどに分布し、それぞれ独自の文化を営んでいったとみられる。13世紀には、サハリンで「吉烈滅」(漁撈民ギリヤーク、現ニヴフ)などと紛争状態にあったところを、その要請を受けた(エ)による攻撃を受け、次第に圧迫され、従属させられるに至った。以降中国王朝は近世の清に至るまで、高級毛皮の貢納・交易を通じ、アイヌを含む北方狩猟民と密接な関係を保ってゆくことになる。^(c)15世紀以降、北海道では道南を中心に和人の入植が進み、アイヌとのトラブルも多発するが、コシャマインの蜂^(e)起を抑えた武田信広を女婿とした(オ)が勢力を拡大、のちに姓を松前と改め、豊臣・徳川政権からアイヌとの交易の独占を容認され、次第にアイヌモシリ^(d)の植民地化を進めてゆく。この傾向は近代に至って加速し、1899(明治32)年には、アイヌの人びとへの授産・教育を建前に差別的な同化を図る、北海道旧土人保護法が制定された。同法は驚くべきことに1997(平成9)年まで持続、国会も、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」を受け2008年に審議するまで、アイヌの人びとを北海道の先住民とは認めなかった(現状、日本の国会が先住民と正式に承認しているのは、アイヌの人びとのみである)。入植者が先住民の土地を奪い自らのものへ変えてゆき、現在に至るまで国民国家の領土とし続ける植民地支配を、セトラー・コロニアリズム(Settler Colonialism)という。そこでは、先住民をめぐる差別／被差別・支配／被支配が日常的に構造化されてみえにくくなり、いつまで経っても「ポスト」(事後)にならない状況が持続する。北海道はその典型

で、近年では、大学や職場、博物館などで自覚なく行われる日常的なヘイト行為、マイクロアグレッション(Microaggression)が問題化している。博物館で働くアイヌの職員へ、「アイヌらしくありませんね」^(f)「勤務を終えたら山へ帰るので
すか」、などとの揶揄を含む問いかけがある一方、彼らを擁護するような口調で、「アイヌも同じ日本人なのだから、差別はしない」^(g)といった主張もなされている。

南西地域では、『続日本紀』文武天皇3(699)年7月辛未条に、「^{たね}多嶺、^{やく}夜久、^{あま}菴美、^み度感^{とかむ}らの人、朝宰に従ひ来りて方物を貢ず」とあり、7世紀末年、種子島・屋久島・奄美群島(奄美大島・徳之島)からの朝貢が実現したと記す。同時期、南九州の(カ)が不穏な動きをみせており、ヤマト王権からしてみれば、これを鎮めるための遠交近攻^(h)策だったのかもしれない。「多嶺嶋」は8世紀に内国化、9世紀には大隅国へ組み込まれるが、他の島々とは以降も交易が続き、日本の南端は中世を通じて変動を繰り返す。しかし、15世紀に琉球王国が成立、北へも勢力を広げたため、奄美群島／トカラ列島が、両国の境界に位置づけられることになる。のち1609(慶長14)年、薩摩藩が琉球王国を征服し、奄美群島までを直轄地へ包含すると、幕府もこれを容認せざるをえず、清からの冊封も含め、1879年前後の「琉球処分」まで重層的な支配構造が持続する。

このように、1300年余りにわたって変転を繰り返してきた「日本」の境界は、近代以降の国際紛争のなかで、さらに大きな軋轢を生む。北ではサハリンが、1905年の(キ)にともなう南半分の日本領化、1920(大正9)～1925年の日本軍による北部占領を経て、1945年のソ連による全島占領に至り「日本国外」となった。このとき、日本軍の特務機関員として活動していた先住民族ウィルタのゲンダースは、ソ連軍の捕虜となって(ク)を経験、10年後にようやく解放され日本へと送還された。彼は日本政府へ軍人恩給を申請したが、日本領時代に内地戸籍に入っていなかったため「国民」とみなされず、支給を認められなかった。のちに集団帰国を許された残留日本人のなかにも、親が朝鮮籍であったためにやはり「国民」⁽ⁱ⁾と認められず、政府から受け入れを拒否される人びともあった。

南西では、琉球・台湾の併合により、その間にあった宮古列島・八重山列島・尖閣諸島といった島々も、なし崩し的に帝国日本の領土に組み入れられていた。

しかし1945年、帝国日本の崩壊にともない、奄美群島と 沖縄 は、アメリカの統治下に属することになる。のち、1953年には奄美、1972年には琉球弧が返還されるが、このタイムラグにおいて、もともと琉球に暮らしていた奄美出身者が「アメリカ領に暮らす日本人(外国人)」となり、琉球政府へ永住権付与を請願する事態が生じた。かかる「非琉球人」は、琉球人と同じように税金を賦課されたにもかかわらず、公民権をはじめさまざまな権利を剥奪されていた。那覇地区奄美会会長泉有平を中心に作成された請願書には、「琉球人も奄美人も同じ日本人である」^(j) 旨が主張されていた。帝国日本への併合によって「臣民」を内面化せざるをえなくなった人びとが、その「日本人」を武器に権利の獲得を叫ばなければならない情況——国家間の紛争と戦後の処理をめぐる「線引き」で分断された彼らの生活は、アイデンティティの危機にも繋がっていたと考えられる。

現在、いわゆる台湾有事の想定を受けて、東シナ海から南シナ海にかけての海域がきな臭くなり、琉球弧から台湾島へかけての島々では、再軍備化や避難計画が進められている。先島諸島の一部をなす八重山列島では、以前から山間部でマラリアが猛威を振るっていたが、戦争末期の1945年3月以降、連合国軍の攻撃に備え、徐々に同地へ疎開命令が出されて実行されていった。^(k) しかしこれも、緊急ゆえの準備不足・物資不足などで不衛生な避難とならざるをえず、結果としてマラリアの蔓延を呼び、八重山では当時の人口約3万2000人のうち、1割に当たる約3800人が亡くなっている。これは、空襲による死者(連合国軍の上陸作戦はなかった)174名を、はるかに上回る数であった。「本州」で台湾有事を叫び、不安を煽る「内地人」には、国家の臨界で翻弄される現地の人びとの姿が、実感をもって捉えられているだろうか。いまのままでは、いずれ、80年前と同じ惨禍を生じることになるかもしれない。

問1 下線部(a)について。流刑地と定められた離島のうちから任意に1つを選び、島名を漢字で書きなさい。ただし、問題文中で、直接島名が触れられているものは除く。

問2 下線部(b)について。かかる認識の根拠になっている史料は何か。最も適切なものを、次のうちから2つ選び、記号で答えなさい。

- ① 稲荷山古墳出土鉄剣銘 ② 石上神宮七支刀銘
- ③ 江田船山古墳出土鉄刀銘 ④ 隅田八幡神社人物画像鏡銘

問3 空欄(ア)に当てはまる語句として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 蝦夷 ② 熊襲 ③ 刀伊 ④ 隼人

問4 空欄(イ)に当てはまる人物の説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 数度にわたって蝦夷「征討」に参加，胆沢城や志波城を築き，蝦夷経営の拠点を大きく前進させた。
- ② 征夷将軍として北方の蝦夷を攻略，水害に遭った志波城を移転して徳丹城を築き，蝦夷の経営を民政重視へ転換する契機をなした。
- ③ 征東大使として胆沢地方の蝦夷を制圧しようとしたが，阿弭流為の軍に大敗した。
- ④ 大船団を統率し，日本海側から蝦夷を討ち，肅慎を制した。白村江の戦いにも従軍した。

問5 空欄(ウ)に当てはまる語句の説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① キタキツネ ② クロテン ③ ツキノワグマ ④ ヒグマ

問6 空欄(エ)に当てはまる国の説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 東部モンゴル地域の遊牧民が、耶律阿保機によって統合されたもの。配下の女真族が博多湾へ侵入したこともある。
- ② 女真族が中国東北部に建てた王朝で、遼を滅ぼし、宋の都開封を陥れた。
- ③ チンギス=ハンによって建国、金を滅ぼすなど巨大な版図を築くがのちに分立、東部地域は国号を元と改めた。
- ④ 中国の西北でタングート族が建国、たびたび宋を襲ったほか、^{はんじょく}繁縟な文字を作り漢文化に対抗した。

問7 下線部(c)について。近世におけるこの交易で、アイヌを含む北方狩猟民が毛皮の交換物として得た主要な物品に、華麗な刺繍が施された清朝の官服がある。松前藩を経て江戸でも流通したこの絹織物を、漢字3文字で書きなさい。

問8 下線部(d)について。コシャマインの蜂起を含むアイヌと和人との衝突は、時系列的に並べるとどのような順番になるか。最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① コシャマインの蜂起 → シャクシャインの戦い → クナシリ・メナシの戦い
- ② シャクシャインの戦い → コシャマインの蜂起 → クナシリ・メナシの戦い
- ③ クナシリ・メナシの戦い → シャクシャインの戦い → コシャマインの蜂起
- ④ コシャマインの蜂起 → クナシリ・メナシの戦い → シャクシャインの戦い

問9 下線部(e)について。問8の蜂起あるいは戦いは、以前はすべて「○○の乱」と表記されていたが、のちに「○○の蜂起」あるいは「○○の戦い」と改められるようになった。それはなぜか。説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 「乱」とは戦乱を意味するが、アイヌの人びとの戦闘は、それほど規模の大きなものではなかったため。
- ② 「乱」とは反乱を意味するが、当時アイヌの人びとは、和人の支配下にあったわけではなかったため。
- ③ 「乱」は抵抗する対象が明確だが、アイヌの人びとの戦闘は、必ずしも和人に向けてのものではなく、部族間闘争の一局面であったため。
- ④ 「乱」は、アイヌの人びとについて、野蛮であるとの誤った印象を与えてしまうため。

問10 空欄(オ)に当てはまる氏族は何か。最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 安藤(東)氏 ② 蠣崎氏 ③ 伊達氏 ④ 南部氏

問11 下線部(f)について。この2つの問いかけは、なぜアイヌの人びとへの攻撃に当たるとだろうか。2発言に共通する問題性を示した説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 交易を重視するアイヌの人びとについて、生活の場は山ではなく海である。
- ② アイヌの生活文化を、未開なものとして提示している。
- ③ アイヌの生活文化を、和人の観点から一方的に決めつけている。
- ④ アイヌ民族はすでに存在しないという揶揄が込められている。

問12 空欄(カ)に当てはまる語句は何か。最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 国造 ② 熊襲 ③ 奴婢 ④ 隼人

問13 下線部(h)について。「遠交近攻」とは、具体的に何を意味しているか。説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① (カ)より遠い南島の人びとと親しく交わり、間に挟まれた(カ)を牽制、攻撃する。
- ② (カ)と親しく交わっていた南島の人びとを遠ざけ、孤立させて、九州の平定を容易にする。
- ③ 遠い南島の人びとと交互に、近くの(カ)を攻撃する。
- ④ 近くの(カ)を攻撃し、遠くの南島の人びとを恐れさせ、従属させる。

問14 空欄(キ)に当てはまる語句は何か。最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 樺太・千島交換条約 ② 下関条約 ③ ネルチンスク条約
- ④ ポーツマス条約

問15 空欄(ク)に当てはまる語句の説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① ハワイ、アーカンソーからカリフォルニアに至る広範囲に設けられた強制収容所へ、10万人に及ぶ日系人が強制収容されたこと。
- ② 満洲などでソ連軍の捕虜となっていた日本軍将兵が、シベリア収容所へ送られ、極寒のなか強制労働に従事させられたこと。
- ③ 「人道に対する罪」を犯したC級戦争犯罪人として、国内外の施設に収容され裁かれたこと。
- ④ GHQの指令によって、戦争協力者・職業軍人・国家主義者らが公職から排除されたこと。

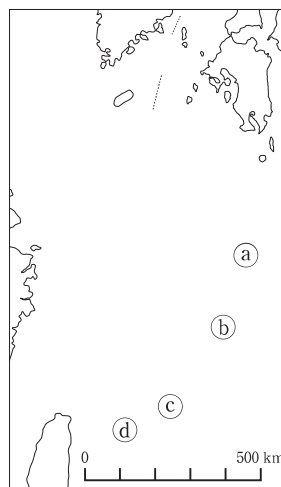
問16 下線部(i)について。この問題は、日本の戸籍法のどのような特徴に由来しているか。説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 血統主義であり、現行法でも踏襲されている。
- ② 血統主義であり、現行法では改められている。
- ③ 生地主義であり、現行法でも踏襲されている。
- ④ 生地主義であり、現行法では改められている。

問17 下線部(k)について。次の問いに答えなさい。

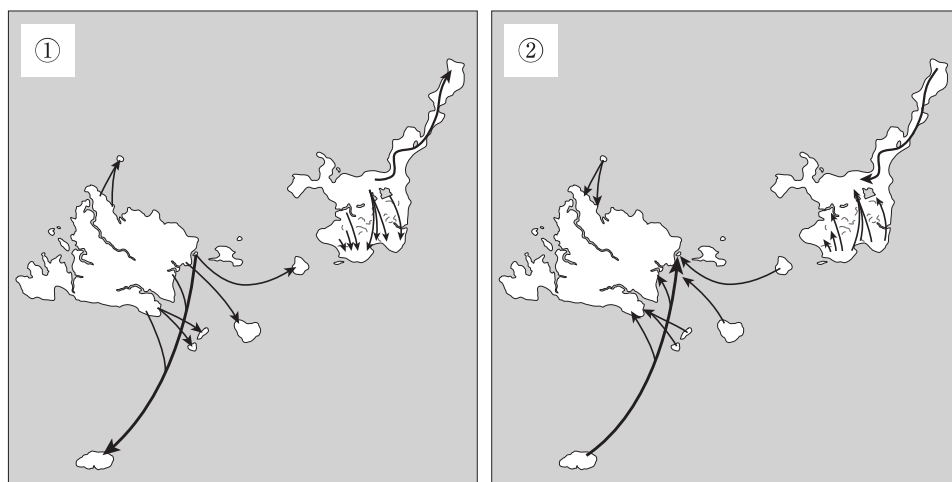
- (1) 八重山地域は、右に掲げた九州～台湾間の地図の①～④のうち、いずれに当たるか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- (2) 以下の文章は、(1)の①～④について説明したものである。八重山地域について正しく述べたものは、そのいずれに当たるか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。



- ① 石垣島・西表島の2大島と幾つかの小島からなる。1880年には、欧米並みの通商権と引き替えに清に割譲されるアイディアが浮上したが、廃案となった。
- ② 那覇市の南西約290 kmの位置にある。8島からなり、15世紀以降は首里王権の支配を受け、20世紀初めまで人頭税が行われた。
- ③ 王朝の中心が置かれたが、1609年に島津氏の襲撃を受け、以降260年余りにわたり、薩摩藩による植民地的支配が続いた。
- ④ 鹿児島市の南西約400 kmの位置にある。古代の史書にもその島名がみえ、古くから中央に知られていたが、ついに郡制は敷かれなかった。

- (3) 日本軍の命令による疎開は、どのような移動方向で実施されたと考えられるか。八重山地域の地政学的位置、アメリカ軍の進行方向などから類推し、最も適切な図を次のうちから1つ選んで、記号で答えなさい。



問18 下線部(g)(j)について。現代のわたしたちは、かつて帝国日本の植民地であった中国東北部、朝鮮半島、台湾、東南アジアの一部地域の人びとを、「同じ日本人」とはいわないが、アイヌや琉球弧 の人びとについては、「同じ日本人」という表現を用いる場合がある。しかし、一見融和的・友好的にみえるこのカテゴライズは、アイヌや琉球弧 の人びとにとっては正反対の意味も持ちうる。その理由について、問題文全体の趣旨を踏まえつつ、以下の点に注意して300字以内で説明しなさい。

- ・セトラー・コロニアリズムが、現代日本に至るまで及ぼしている作用
- ・近代日本における同化政策
- ・現代日本における、アイヌと琉球弧 の人びとの立場の相違

〔以上の問題文は，下記の文献を参照して作成した。〕

- ・中山大将『国境は誰のためにある？—境界地域サハリン・樺太—（歴史総合パートナーズ10）』清水書院，2019年
- ・野入直美『沖縄—奄美の境界変動と人の移動—実業家・重田辰弥の生活史—』みずき書林，2021年
- ・「台湾有事の教訓に？八重山諸島の住民1割超が死んだ『戦争マラリア』」『毎日新聞』2024年6月23日付記事

